

## 新聞の役割

最近、便利さが最優先か、新聞を取らずにインターネットでニュースを読む人が増えています。

ネットでは、ニュースの見出しがならび、興味をそられたものをクリックして読みます。ネット事業者は利用者が好む情報を提供しようとするため、その結果、好みの情報だけに囲まれ、情報がかたよってしまう問題が指摘されています。フィルター(選別機能)によって心地よいあわ(バブル)に包まれた状態になるということで「フィルターバブル」とも呼ばれます。

紙の新聞は、「これが重要だ」「これが今日のイチ押し」という記事の順位がわかります。好きな記事の横にある記事を読んでみたら興味がわいたという出会いもあります。「フィルターバブル」とは違う世界があるのです。

## おめでとう ございます!

4年生の塚本 楓香さんの書道作品が、第14回全日本小学生・中学生書道紙上展(公益社団法人 日本書芸院)の小学4年生の部で、「ベスト100」に選ばれました。「ベスト100」は、全国応募2445点の中から特に厳選された優秀な作品で、11月11日(月)の読売新聞夕刊にも名前が載りました。

おめでとうございます!



塚本 楓香(大阪・茨木市立東奈良小学校)

## 国語力が危ない

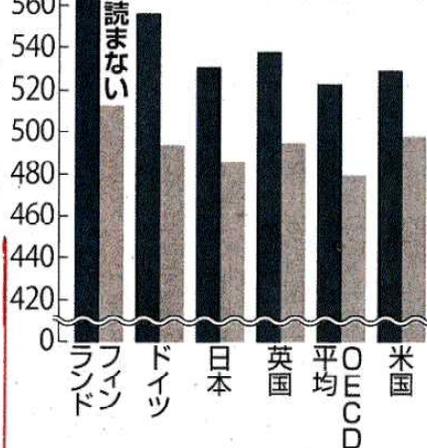
「読む・書く」の今

文章を読む力をつけるためには、豊富な読書体験が欠かせない。

「本来の結末よりわかりやすい」「登場人物の性格とセリフが合っていない」

10月下旬、埼玉県立大宮高校。3年の国語で、過去の大学入試センター試験に出た小池昌代さんの短編小説「石を愛でる人」を題材にした授業が行われた。前回の授業で作品の結末を隠して読み、途中までの物語を踏まえて生徒らが結末を創作。この日は班ごとに、自分たちが作った結末などについて討論した。担当の畑文字教諭(59)は「小説の面白い方、楽しみ方を伝えなかった」と狙いを語る。

小説・物語の読書と「読解力」の平均得点 (OECDの国際学習到達度調査から)



※「読む」は「週に数回」「月に数回」と回答した生徒。加盟国の平均点を500点とし、3分の2が400~600点に入るよう統計的に処理。「満点」はない

## 文学理解力を育む



国際バカロレア(IB) IB機構(本部・スイス)が提供する3~19歳の教育課程。認定校は150か国以上の5000校を超える。文部科学省によると、国内の認定校は75校。履修した高校生が母国語や英語などで受ける共通の試験で一定以上の成績をおさめると、世界各国の大学で入学資格として認められる。国内では筑波大や東北大、慶応大など61大学がIBを活用した入試を導入している。

「読む・書く」の今、文章を読む力をつけるためには、豊富な読書体験が欠かせない。「本来の結末よりわかりやすい」「登場人物の性格とセリフが合っていない」10月下旬、埼玉県立大宮高校。3年の国語で、過去の大学入試センター試験に出た小池昌代さんの短編小説「石を愛でる人」を題材にした授業が行われた。前回の授業で作品の結末を隠して読み、途中までの物語を踏まえて生徒らが結末を創作。この日は班ごとに、自分たちが作った結末などについて討論した。担当の畑文字教諭(59)は「小説の面白い方、楽しみ方を伝えなかった」と狙いを語る。

授業作りに協力した東京大の白水始教授(学習科学)は「小説は多様な解釈が可能だからこそ、文章を理解して互いに意見を言い合うことで、他者への共感力や異なる価値観への理解力が育まれる」と指摘する。

経済協力開発機構(OECD)の国際的な学力調査では日本の15歳の読解力低下が明らかになった。小説

などを月に数回以上読む生徒の平均得点はそうでない生徒より45点高かったが、「趣味の読書はしない」という生徒は45・4%とOECD平均を3割上回っており、いかに読書習慣をつけるかが課題として浮かぶ。

文学作品を深く読み、多角的な見方や批判的な思考力を育成することは、国際的な教育プログラム「国際バカロレア(IB)」で行われている国語教育でも重視されている。

認定校の静岡県沼津市の加藤学園暁秀高校では今年秋、2年生が江戸時代の劇作家・近松門左衛門の「冥途の飛脚」を題材に、登場人物の価値観や時代背景、作者の意図などを分析しながら批評し合った「写真」。論じる際には文章に基づく根拠を求め、論理に飛躍がなければ「なぜそう思うのか」と互いに問いただす。入江麻姫さん(17)は「クラスで同じ作品を読み解くことで、論理的に考え、多角的に分析する習慣がついた。ニュースを見ても、背景を探るようになった」と語る。IB機構のオクサーナ・ヤジャシュニク担当副部長は「文学を学ぶことで、あらゆる学問分野を理解する力を育むことができ、分析的で的確なコミュニケーション能力を身につけることができる」と文学を通じた学びの意義を強調する。2022年度に実施される高校の新学習指導要領では、国語の選択科目に「論理国語」「文学国語」などが新設される。だが、論理と文学を分けて国語力の向上につながるのか、懐疑的な見方を示す識者も多い。出口治明・立命館アジア太平洋大学長は「文学を始め、読書で得られる知識は、海外や国内などで相手と共通の話題となる『共通テキスト』だ。感受性の柔らかい思春期に、文学の素養を身につけることは大切。最終的には、家庭や学校で小説や新聞など幅広く活字を読まなければ、日本人の国語力は上がらないのではないか」と話している。